

看護学生と市内小学生とのふれあい活動事業を行いました！

昨年12月9日(金)に東仙道小学校、西益田小学校、匹見小学校、戸田小学校、13日(火)に鎌手小学校で「県立石見高等看護学院の看護学生と地域の子どものふれあい活動事業」を行いました。

今回で14回目となるこの事業は、看護学生とのふれあい学習を通じて命の尊さや弱者へのいたわり、思いやりの心を育み、学童期の頃から看護職への関心を高めることを目的としています。

西益田小学校では、児童たちは看護学生から看護師を目指したきっかけや看護師の仕事のこと、実習で大変だったことの話



いた後、看護師と一緒に脈を測ったり、聴診器で心臓の音を聞きあったりしたほか、手洗い場で正しい手の洗い方について実践を交えて楽しく学びました。

また、戸田小学校では、児童たちは看護学生の話聞いた後、自分の手にどのくらい汚れが付いているのかを調べたり、血圧測定を体験したりしました。

実際に、小学生の頃に看護学生と交流したことがきっかけで看護師を目指した学生も多くいます。地域の子もたちがこのふれあい活動を通して看護師の仕事に興味を持ち、将来の職業選択のひとつになることを期待しています。

市内で働く医師が母校で出前授業を行いました！



昨年12月12日(月)に桂平小学校において「益田市地域医療教育推進事業」の一環として、益田赤十字病院の山口祐貴先生が出前授業を行いました。

山口先生は、桂平小学校・西南中学校を卒業後、益田高校から地域枠推薦入試で島根大学医学部に進学し、現在は益田赤十字病院で消化器内科の医師として勤務しています。

授業の前半では、山口先生の生い立ちや小学生の時から医師になることを目指していた話をはじめ、体内の様子を写した映像を使った説明などがあり、児童たちは興味深い様子で山口先生の話に耳を傾けていました。

その後、お互いに発言しやすいよう皆で輪になって座り、児童たちが山口先生に聞きたいことを質問しました。当時の学校生活の様子や得意だった科目、勉強時間や学習方法などの質問があり、児童たちはとても参考になったようでした。

市では今後も、若いうちから医療を身近に感じ、関心を持ってもらえるような機会を提供することで、多くの若者が医療を志すきっかけとなるよう取組を続けていきます。

